

岩手県立高田高等学校 広報



第3号

# 八重の汐

技 訓  
至 誠  
錬 磨  
創 造

立教大学文学部の皆さんとのオンラインによる共同授業

四月二十六日(月)、二学年普通科の大学・短大・医療系専門学校への進学希望者は、T×A c t i o nの一環として、高大連携地域探究の授業を行いました。



オンラインの様子

「T×A c t i o nの一環」を別の表現にすると、「総合的な探究の時間の探究活動」となります。この共同授業では、四月二十日(火)の高大連携地域探究の時間に生徒それぞれが考えた探究活動のテーマについて、立教大学の皆さんからアドバイスをいただきました。コロナ禍の中で不便なことが多い昨今ですが、オ



授業に集中

ンラインでの活動により、不便さを乗り越えた有意義な時間になりました。

小説家真山仁先生をお迎えしたオンライン講演会

四月二十七日(火)、三年の大学・短大・医療系専門学校進学希望者は、T×A c t i o nの一環として、これから探究活動を進めていく上で必要となる新聞や書籍の読み方のポイントを身に付けるべく、オンラインでの講演会に臨みました。

講師には、『ハゲタカ』などの作品で知られる小説家の真山仁さんをお迎えしました。新型コロナウイルス対策のため、陸前高田市コミュニティホールと高田高校をZoomでつないでの講演会となりました。なお、Zoomとは、パソコンやスマートフォンを使って、セミナーやミ

ディングをオンラインで開催するために開発されたアプリケーションのことで、コロナ禍の中、企業の在宅勤務での活用などで注目が集まっているものです。



真山仁先生

先生からは、小説の題材の決め方、執筆に当たっての取材や調査の方法、新聞の読み方、そして、震災から十年が経過した被災地の高校生に期待することについてなど、多くの得難いお話をいただきました。

## イワテーブル

五月十一日(火)、一年を対象とした「イワテーブル」が行われました。



このイベントは、T×A c t i o nの一環であり、気仙地区で働く社会人と一年生の交流会でした。イワテーブルという名称は、「岩手」「テーブル」「エイブル」を組み合わせた造語で、岩手の社会人と高校生が語り合う場という意味です。

ちなみに、「エイブル」「able」の語は、「できる」「可能な」という意味です。そして、「able」が、動詞や名詞の終わりにくっ付くと、その語を「たかさんのことをうける、可能にする」という形容詞に変身させます。



用りしま 護切試いま 介爪をてす

講師は、サービス業や農業などの十人の方が務めてくださいました。生徒達は、九人から十三人のグループに分かれ、仕事のやりがいや働く場としての故郷の魅力などについて質問していました。生徒たちは、イワテーブルを通じて、視野を広げて自身のキャリアデザインを考えました。



(株)マイヤ様によるプレゼンテーション(教室に設置したプロジェクターから映写しています)

## 高総体壮行式

五月十二日(水)、高総体壮行式が開催されました。

本来なら、集会を開き出場する選手に対して直に声援するところですが、今年には新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、校内放送による開催となりました。



教室で静かに応援



放送室から決意表明